

## 受賞作品

<最優秀賞> 福島 由男さん

妻の介護を家で始めたのが4月からです。大切な妻の介護だから100%愛を込めてしようと思いましたが、4ヶ月位経った頃から、左腕や腰が痛くなり、また妻の状態も少しも良くなってないように思え、だんだん私の心が折れ出してきました。私は毎日介護記録として連絡帳を書いています。それを生活相談員さんが読まれ、私の苦しみをわかって下さり、送迎で忙しい中、話をして下さいました。「なんでも自分でとがんばりすぎないように」「1人で悩んでいないでいつでも相談して」「一日を全部介護生活にしないで自分の楽しむ時間をつくって」と言われ、いつかゆっくり話を聞かせて下さいと言って帰られた。親身に話を聞かされ、私は一人ではないのだと思うと何か少し気が楽になったように思いました。多くはいりません、少しの言葉で癒されました。介護している人の心のケアが本当に必要ではないかと強く感じました。

<優秀賞> 川村 啓子さん



“先生のお言葉は私のくすりです”

母のノートの最後のページに走り書きされた言葉。ひと目で先生への母の遺言だとわかりました。今から思えば、その日の母はいつもと様子がちがっていました。在宅医療介護になり2~3週間の命といわれた母は、先生の毎日毎日のご高診で回復にむかい、何の薬も飲まず元気で、この年でピアノの練習もできるようになりました。そこには医療の原点である“愛”が溢れていました。ありがとうございました。母は何もできなかった私を、介護ができる人間に育ててくれました。母との貴重な時間は豊かな心の絆が深まった宝物でした。その夜、苦しみだし「ずっとそばにいてて。」と言いながら私の見守る中、母は大好きな大好きな先生にお看取りしていただきました。最期まで命を輝かし続けてくれた母でした。先生、母に人生最期の幸せをありがとうございました。母は、日本一幸せでした。

<優秀賞> 西田 栄汰さん

僕が10ヶ月ほど入院していた時、とてもお世話になった看護師さんたちのことを今でもすごく覚えています。僕が治療中の時に励ましてもらったことをすごく覚えています。しんどい時に少し声をかけてもらうだけで、気持ちがすごく楽になりました。手術の後、痛みで苦しんでいたときも、声をかけてもらいました。その中で、ある看護師さんに言ってもらった言葉が、今でも残っています。「よく頑張っている」という言葉です。普通の人なら頑張れと言う人が多いと思います。声をかけてもらうだけで嬉しいのですが、上の言葉はすごく心に残りました。看護師が何気なく話してくれた言葉が患者の人からすると、とても心強いです。入院した時の看護師の方に憧れ、今、僕も看護師という仕事を目指しています。良い看護師の方に出会えたからこそ今の自分がいると思います。ほんとに感謝しています。ほんとにありがとうございました。

